資質・能力を育成する教育課程の実現
～ 新聞活用による学びの充実 ～

新潟市立上山中学校

1　学校の概要

当校は地域の再開発により近年に宅地化が進み、学区の児童生徒数が急激に増加している。現在、在籍生徒数は県内最大の 852 名（1 年生 265、2 年生 305、3 年生 282）となっている。新潟市の生徒数予想では今後さらに生徒数は増加し、令和 10 年度にピークを迎えることになっている。

少子化が進む社会において少なくなっている大規模校の利点を最大限に生かし、教育目標である「自主・協調・創造」を多くの人とのかかわりの中で醸成していく教育に取り組んでいる。また、地域にもそうした教育活動に理解を示し、共に生徒の資質・能力の育成に協力してくれる地域・保護者の人材が大変豊富であることも当校の強みである。

2　NIE 実践のねらい

上山中学校の生徒に人間としての力をつけること。

3　本年度実践の概要

NIE 実践のねらいを受け、教育目標である「自主・協調・創造」に関わる資質・能力の育成に向けて行われる様々な教育活動において、新聞が活用できる場面を探り、教育活動の効果を高めていくことを目指していくこととした。そこで、研究主題を次のように設定した。

資質・能力を育成する教育課程の実現

この研究主題のもと具体的には以下の３つの取組を行った。

(1)　職員が新聞に触れる機会を増やす。 (2)　日常の教育活動に新聞を取り入れることで、生徒の力を育成する。 (3)　総合的な学習の時間の年間指導計画を見直し、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力」を育成する。

以下にそれぞれの概要を述べる。

(1)　職員が新聞に触れる機会を増やす。

新聞を活用して、生徒の資質・能力を育成するために、職員が新聞に触れる機会を増やした。

① 教育に関わる記事、授業に使えそうな記事のスクラップを行う。

令和６年９月より新聞記事のスクラップを行った。教育に関わる記事や、授業に使えそうな記事をストックしていった。ストックした新聞記事を用いることで、教育活動の効果を高めることができた。

② 新聞データベース教材「ふむふむスタディー」操作説明会への参加

５月 10 日（金）、13 日（月）に行われた新潟日報社ふむふむスタディー事務局主催のオンライン説明会に参加した。

この講座を通して、「ふむふむスタディー」の有効性を確認することができ、職員の意識が高まった。また、新聞作成が可能な「クミハン」について学び、その後の実践に生かすことができた。

③ 新聞の読み方講座の設定

８月１日（金）に新潟日報社読者局 NIE チーフアドバイザーの木村隆様を講師として迎え、新聞の読み方・作り方について講座を設定した。

新聞の特性・新聞の読み方・新聞記事の見出しの書き方について学ぶことができた。新聞を教育活動に活用する方途を職員で共有するこができ、職員の意欲が高まった。

(2)　日常の教育活動に新聞を取り入れることで、生徒の力を育成する。

① 生徒が新聞に触れる機会を増やすことで、生徒の社会への関心やプレゼンテーション能力を高める。

ア　週１回、朝学活の中で NIE タイムを設定する。

生徒が新聞に触れる機会を作るために、朝学活の時間で NIE タイムを設定した。

多くのクラスは「ふむふむスタディー」を利用して、新聞記事に触れるようにした。また、クラスによっては、帰りの会で今日のニュースのコーナーを設定し、新聞記事の概要や自分の考えを述べるようにした。

イ　週２回、昼の NIE タイムを設定する。

給食時の放送で NIE タイムを設定した。今年度はスポーツのニュースや、卒業生・在校生の活躍など、生徒が興味を持ちそうな記事を中心に紹介をした。また、クイズ形式にしたり、新聞を読むように促す終わり方をしたりするなどの工夫をした。

NIE タイムの内容について話題にする生徒や、職員に質問をする生徒がみられるなど、新聞を身近に感じたり、最近のニュースを知ったりする機会となった。

ウ　NIE コーナーの設置

寄贈された新聞を生徒が読めるように NIE コーナーを設置した。また、NIE タイムで紹介した記事を掲示した。

② 学習活動に新聞記事を用いることで、学びの効果を高める。

以下のような場面で新聞記事を用いた。

・ 社会科公民の憲法や政治の単元では、新聞記事を頻繁に取り上げ、実際の社会で今まさに起こっている事象であることを生徒に意識させながら、授業を進めた。
・ 生徒がテスト計画を立てる際に、新潟日報の新聞記事「中高生のためのすーぷもだ」を提示し、テスト計画の大切さやスマホの使い方について考えるように促した。担任ではない、第３者の考えであるので、説得力が増した。
・ 体育祭の準備活動で、ジェンダーについての記事を提示し、生徒に不要な男女の区別をなくすことについて考えるように促した。新聞記事を用いることで、社会で起きている問題として生徒はとらえることができた。
・ 国語の故事成語の学習で、「ふむふむスタディー」の「ニュースサーチ」を用いて、選択した故事成語を調べた。生徒は、故事成語が社会で使われていることを確認し、学習への目的意識を高めることができた。

(3)　総合的な学習の時間の年間指導計画を見直し、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力」を育成する。

総合的な学習の時間の目標は「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成すること」である。

しかしながら、上山中学校では、職場体験などの体験活動が、総合的な学習の時間の探究の過程ではなく、体験活動自体が目的となっていたきらいがある。具体的には、生徒に課題の設定を促すことなく、体験活動があることを教師が生徒に伝えていた。その後、体験活動に向けた準備を教師主導で行っていた。事後に、体験した内容をスライドなどにまとめ、発表をして終わりになっていた。

近年、総合部を中心に、このような課題の解決にむけ探究的な学びを実現しようと見直しを図っていた。この NIE の研究を通して、改めて総合的な学習の時間について教職員が学び、生徒の「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力」の育成を促進していくことを目指した。

具体的には、生徒が　課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の探究の過程を経由する学びを組織する。それぞれの段階において、新聞を用いることが効果的であるかを検討していく。

① カリキュラムの見直し

以下のように総合的な学習の時間のカリキュラムを再編成した。

1学年　昨年度までは防災学習が中心であったが、地域学習を取り入れた。地域学習については、パンフレットを作成し、地域の商店などに置かせてもらう。
2学年　職場体験学習において、生徒に働くことについて課題を設定するように促した。また、クミハンを用いたまとめ・発表の後に、改めて「人は何のために働くのか？」を検討する活動を組織する。
3年生　上級学校訪問に代えて。よりよい地域をつくるためにどうすればよいいかという課題から、未就学児・小学生向けの活動「上山スマイルコミュニティ」を行う。

② 調査活動に新聞記事を用いる。

2学年職場体験における、事前学習で各スーパーマーケットの特色についての新聞記事を提示した。また、「ふむふむスタディー」の「ニュースサーチ」で事業所について調べるように促した。今までの学習では、その企業のホームページしか調査する方法がなかったが、客観的な情報を得ることができた。

③ まとめ活動における「クミハン」の活用。

総合の学習のまとめで、「ふむふむスタディー」の「クミハン」を用いてまとめをおこなった。「クミハン」を用いてまとめることには、以下のメリットがあると考える。

・ 限られた文字数でまとめるので、内容が精選される。
・ 比較的簡単に美しく作ることができるので、意欲が増す。
・ 見出しに結論が書かれるので、読みやすい。

仕事の意義新聞

2025年(令和7年)10月25日(土曜日)

仕事の意義新聞

社会部　上山太郎
文章　増田ひろ
写真　増田ひろ

感謝される喜び

人助けとは

私は、職場体験二日目。ある一本の電話を受けた。「お年寄りが倒れている。救急車を呼んでほしい」という内容だった。私は、もちろん救急車を呼んだ。そして、その電話の後、私は、ある人の家に向かった。そこでは、救急隊員が倒れた人の手当てをしていた。その人は、意識はあるが、動けない状態だった。救急隊員の指示で、その人を担架に乗せ、救急車に運んだ。その人は、とても感謝していた。私は、その人の家族から、「ありがとう」と言われ、とても気持ちよくなった。「頑張ってね」という言葉をかけてくれた。私は、その言葉を聞いて、とても嬉しくなった。私は、この職場体験で、人の役に立つことを学んだ。たくさんの人の役に立てるように、これからも、頑張りたいと思った。

好きなことを仕事に

物作りの楽しさ

一日目は伏木会社に行った。ユーズラインに行った。ユーズラインは、紙の製品などを扱っている専門会社である。ユーズラインは、紙の製品などを作っている。ユーズラインは、紙の製品などを作っている。ユーズラインは、紙の製品などを作っている

働くことには、収入を得ること以外にも、自己実現、利他（社会貢献）といった価値があることに気付くことができる。

③ 授業の実際

前時までに職場体験のまとめ学習として、「クミハン」を用いて新聞形式でまとめている。なお、新聞の見出しには、それぞれが職場体験の学習テーマとして設定したことに対する答えを記述するようにした。

本時の導入では、各自の作成した新聞をグループで交流する活動を組織した。その後、単元導入時に全生徒の記述した働くことについての問いを集約したものである「人は何のために働いているのだろうか？」について改めて考えるように促した。

生徒は、自らの書いた新聞や、職場体験当日のエピソードを振り返り、お客さんの笑顔、社会貢献、自らの成長などを見いだしていった。そして、グループや全体で交流することを通して、働くことには自己実現と利他（社会貢献）という価値があると整理した。

授業の終末では新聞記事「笑う門にはイモ来たる」（新潟日報 2025 年 6 月 3 日）を提示した。この記事を読むことを通して、生徒は自己実現と利他（社会貢献）は別のことではなく、両立できることであることを見いだしていった。

笑う門にはイモ来たる 41

中学生が職場体験

働くことの意味も伝え

「3日間さつまいも農場、現場、仕事ってどこも大変だけど、『ありがとう』をもらえるのがうれしくて、素晴らしいと思ったりした。洗い物をしたりしました。

担当は『あらやさん』という方でしたが、バタバタ走り回っていたかと思うと、おしゃべりしたり、電話したり、パソコンの前で『マーム』とかどうなんだ、なんだ」と言いながらも、なんだかニヤニヤ。職場体験を終えての感想を聞くと、

『終わった！』と言い切ってくれて『あなたスゴ！中来ようぞ』と。

『あらやさん』がソフトクリームの巻き方を教えてくれて『あなたスゴ！大きくなったらバイトに来ておいで！』と言ってくれたので、『あらやさん』がソフトクリームの巻き方を教えてくれたのでいつか本当に来たいなと思いました。スタッフの皆さん、3日間ありがとうございました」

―と中学生が書いたかもしれない、書いてないかもしれない日記（妄想）。

きららでは毎年、市内の中学校から職場体験を受け入れています。イモを接客だけでなく、精米、シール貼り、サツマイモ洗い、袋詰めなどさまざまな仕事があり、最後によく、それが起爆なんだ」と言ってくれます。

一生懸命、キラキラ育ってもらうのも、きらきらした目で頑張る中学生たち。イモに触れ、イモを食べ、みっちりイモ育を受けた彼ら。きっとこれからもサツマイモを見かけるなど、この3日間を思い出すはず。そして大人になった時、未来の中学生にイモ愛を語っちゃってるかも。本当にバイトに来て「ソフトクリーム巻きの神」と言ってくれたら、あらやさん、たぶん位いちゃうかもしれません。「イモ育」の可能性も、無限大

―働くということは「誰かを幸せにすること。やりたいこと、得意なこと、それが仕事のすべてじゃないけれど、君の将来の職業がそのどれかだったら最高じゃない？

君たちには可能性が無限。『今』頑張ることで『未来』が大きく変わってくる。どんなことも無駄じゃない。だからたくさん勉強して、いろいろな経験をして、自分の選択肢を広げて、未来を決めていけばいい。この市」

新谷　梨恵子（農プロデュース業、カフェ経営・小千谷市）

＝第13次掲載＝

(2)　協議会について

職員からは、「職場体験の事後学習として、働くことの意味への深い探究ができた授業であった」や、「新聞やクミハンを有効に活用した授業であった」などの意見があった。

NIE アドバイザー 東青山小学校 生田恵子様からは、新聞を活用することで、生徒に培うことのできる資質・能力についてや、導入で新聞を用いることの有効性について示唆をしていただいた。

NIE リーダー 両津中学校 小黒淳一様からは、総合的な学習について、生徒のモヤモヤを表出させることが、課題設定に繋がることを示唆していただいた。

(3)　まとめの校内授業研究会の成果

・ 職員が新聞活用のよさについて学ぶことができた。
・ 職員が総合的な学習の時間の単元構成や、単元の終わり方について学ぶことができた。
・ 今年度の上山中学校のキーワードである「協調・利他」について、

生徒に考えさせたり、授業における育成の方途について職員が学んだりすることができた。

5　成果と課題

今年度の研究を通し、新聞活用については以下の様な成果と課題が明らかになった。

＜成果＞

・ふむスタで、生徒が新聞に触れる場面を増やせた。
・総合の調査の場面で、ニュースサーチを活用できた。
・クミハンで、事実を基にまとめる活動を取り入れることができた。

＜課題＞

・新聞記事そのものの活用が不十分であった。最新の情報、正確な情報、多様な情報・社会の問題が載っていることなどの新聞本来の良さをもっと教育活動に生かしていく。
・新潟日報以外の新聞の活用が不十分であった。読み比べなどを行いたい。

また、総合的な学習の時間の改善については以下の様な成果と課題が明らかになった。

＜成果＞

・体験活動が目的化している総合からの見直しを図った。
・課題を明確にして活動に入った。
・まとめ活動の後に、概念的知識の獲得を目指した。

＜課題＞

・社会貢献・集団との関わりを大切にしながら、課題設定をより良くしていく。

6　次年度に向けて

今年度は一年次として無理なく、新聞の良さを生かして研究を進めることができた。今後も、折に触れ新聞記事を活用したり、ＮＩＥタイムの充実を図ったりすることを通して、新聞活用を充実させていく。

また、上述の成果と課題を踏まえ、次年度は、総合的な学習の時間の導入場面において、新聞を活用する授業を行い、生徒の問題を発見する資質・能力や、自己の生き方を考えていく資質・能力の育成を目指していく。

また、研究主題は「資質・能力を育成する教育課程の実現」であるがが、どのような資質・能力を育成するか？今年度でどのように資質・能力が高まったか？を明確にすることができなかった。評価が難しい項目ではあるが、研究の成果に関わることなので、できるだけ明確にしていきたい。

（関谷　卓也）